

光といのち

第117号

—春彼岸—

2019年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌（井上孝昌）

われも信心決定せず、
弟子も信心決定せず
して、一生はむなしく
すぎゆくように候う。

蓮如上人

浄土真宗の信心

私たちは、親鸞聖人が開顕された浄土真宗を、自分（家）の宗旨と思つていきますよね。ところで、もし誰かに「あな

たの信心は、どのような信心ですか」と訊ねられたら、どう答えますか。

「南無阿弥陀仏」と念仏を称えますとか、朝夕に正信偈をお勤めしていますとか、聞法を心がけていますとか、厄除けとか占いはしませんとか、葬式や法事は勝善寺にお願いするとか、勝善寺に護持金を納めているとか、行為としては色々言えます。

しかし「信心」という心の内側のことになると、とたんに「それって何？浄土真宗の信心が私にあるのかしら？」と疑問が湧きます。

「信心」を『広辞苑』で引くと「神仏を信仰して祈念すること」とあります。「信仰」は「信じ尊ぶこと」、「祈念」は「いのり」です。さらに「いのる」を

引くと「言葉に出して、神仏から幸いを授けられるように願うこと」とあります。

辞書の説明を待つまでもなく「信心」というと、神仏の力を頼り願い事を叶えてもらうことのように考えてしまうところがあります。

浄土真宗の信心は、そういうことなのか？これも疑問です。

「信心」は、「神仏を信仰して祈念すること」ですので、次に信心の対象となる「神仏」を見ていきます。

当寺の所在する二部区には、松尾神社があり主神は「大山久比尊（おおやまのひのみこと）」です。

「信仰し祈念する」対象は、神か仏か？あるいは両方か？あなたはどちらですか。

また本地区に隣接する検儀谷区には大勝院、久枝区には蓮台寺という浄土宗の寺があります。そこには当寺と同じ阿弥陀仏像が奉安されています。

宗旨が違うのに、なぜ同じ阿弥陀仏像なのか？立像と座像の違いはありますが。

因みに岩井地区で住職が在住している寺院の宗派名と本尊は、

福聚院・曹洞宗・釈迦如来
壽薬寺・真言宗・薬師如来
福満寺・真言宗・十一面観音
です。

阿弥陀仏とそれ以外の諸仏とどう違うのか？これも疑問です。時に応じてとか、どの仏様も平等に信仰するなど、お考えの方もいるでしょうが・・・。

私たちは、南無阿弥陀仏をお姿に表した阿弥陀如来像をご本尊とし礼拝しますね。それはなぜか？実は、ここが大事なところなのです。

彼岸会では、これらのことをお話したいと考えています。

春彼岸会のご案内

一日時 三月二十一日（木）

春分の日

十時～十一時半

一 内容 法要と法話

※当日護持金をお持ちの方は、本堂にてお納めください。

※題字下の文は、五帖の『御文』第一帖一通目「ある人いわく」と呼ばれる御文にあります。

見開きページに、この御文を掲載しました。



『御文第一帖初通講義』という書があります。香月院深励（こうがついんじんれい）という江戸時代の宗学者の講義録です。

蓮如上人がお書きになった『御文』のこの第一帖一通は、元旦に拝読し順番に八十通を読み進んでいきますので、一年間に五回は拝読しています。

しかし、ただ漫然と読み上げているだけでしたので、せっかくの蓮如上人のご勸化を素通りしていたことが、この講義録を読んでわかりました。

実如上人（蓮如上人の後継者）以来、本願寺代々の善知識（今の御門首）は、五帖の『御文』でご門徒をご勸化されてきたと、深励師は講じています。そしてそれは、蓮如上人の御遺言であった」と理由も示しています。

また「浄土真宗がこれほど繁盛したのは、『御文』があったからこそだ」と蓮如上人の功績を讃えつつ、制作の真意は「唯一人たりとも信をえよがし」ということであつたと述べています。

今回、深励師の講義録をもとに、蓮如上人の『御文』制作の意図と第一帖一通の趣意まとめてみました。

深励師に、ご勸化いただいたと感じたからです。

『御文』第一帖一通

ある人いわく、当流のころは、門徒をばかならずわが弟子とこのころえおくべく候うやらん、如來・聖人の御弟子ともうすべく候うやらん、その分別を存知せず候う。また、在々所々に小門徒をもちて候うをも、このあいだは手次の坊主には、あいかくしおき候うように、心中をもちて候う。これもしかるべくもなきよし、人のもうされ候うあいだ、おなじくこれも不審千万に候う。御ねごろにうけたまわりたく候う。

答えていわく、この不審もつとも肝要とこそ存じ候え。かたのごとく耳にとどめおき候う分、もうしのぶべし。きこしめされ候え。故聖人のおおせには、「親鸞は弟子一人ももたず」とこそ、おおせられ候いつれ。「そのゆえは、如來の教法を、十方衆生にとききかしまるときは、ただ如來の御代官をもうしつるばかりなり。さらに親鸞めずらしき法をもひろめず、如來の教法をわれも信じ、ひとにもおしえきかしまるばかりなり。そのほかは、なにおしえて弟子といわんぞ」とおおせられつるなり。されば、とも同行なるべきものなり。これによりて、聖人は御同朋・御同行とこそかきしめておおせられけり。されば、ちかごろは大坊主分のひとつも、われは一流の安心の次第をもしらず、たまたま弟子のなかに、信心の沙汰する在所へゆきて、聴聞し候うひとをば、ことのほか説教をくわえ候いて、あるいはなかをたがいなんどせられ候うあいだ、坊主もしかしかと信心の一理をも聴聞せず、また弟子をばかようにあいささえ候うあいだ、われも信心決、定せず、弟子も信心決、定せずして、一生はむなしくすぎゆくように候うこと、まことに自損損他のとが、のがれがたく候う。あさまし、あさまし。

古歌にいわく

うれしさを むかしはそでに つつみけり こよいは身にも あまりぬるかな

「うれしさをむかしはそでにつつむ」といえるころは、むかしは、雑行・正行の分別もなく、念仏だにももうせば、往生するとかかりおもいつるころなり。「こよいは身にもあまる」といえるは、正・雑の分別をききわけ、一向一心になりて、信心決、定のうえに、仏恩報尽のために念仏もうすころは、おおきに各別なり。かるがゆえに身のおきどころもなく、おどりあがるほどにおもうあいだ、よろこびは、身にもうれしさが、あまりぬるといえるころなり。あなかしこ、あなかしこ。

文明三年七月十五日

『御文』制作の意図

①親鸞聖人の教えを解りやすく伝える

親鸞聖人が撰述された『教行信証』は漢文で書かれています。いつもお勤めしている「正信偈」は、その「行巻」の最後にあります。読誦していても意味が解りませんよね。親鸞聖人には和語の聖教もあり、色々な角度から信心が説かれています。そのどこがポイントなのかもよく解りません。

そこで蓮如上人は、それら「百あるもの」を一に選りすぐり、十あるもの一つに選りに選り、二「文不知の輩」までもが早く合点できるように『御文』を制作されたのです。

②信心の乱れを正す

蓮如上人の時代は、親鸞聖人がお亡くなりになって二百余年が過ぎ、ご門徒の間に種々の誤った信心が流布し、信心が混乱していました。

そこで親鸞聖人が開顕された浄土真宗の要点を正しく勧化するために『御文』を制作されたのです。

誤った信心（異計）

①不拝秘事

念仏の信心をいただいたので、我が身はもはや無上仏になったと同じ。だから絵像や木像を拜む必要はない。

②十劫秘事

阿弥陀仏が十劫の昔に成仏した時に、す

でに衆生の救済も成就されているのである。その阿弥陀仏の御恩を忘れないように念仏申すことが肝要である。

※40里立法の石を3年に一度ずつ天女の衣で拭って摩滅するまでの時間です。

③善知識のみ（知識帰命）

お念仏の道に導いた人を善知識と仰ぎ、その教えを絶対視し無批判に従うことを正しい信心だと思ひ込む。

④念仏をみんなが称えているから、自分もなんとなく念仏を申し、疑問も感じない。

⑤三業（さんごう）異計

仏に向かつて合掌し（身業）、「ナムアミダブツ」と口に出し（口業）、心にはもちろん「仏、助け給え」と思う（意業）。この三業そろえて弥陀を頼むことが一念帰命の信心だと考える。

⑥浄土宗鎮西派に影響された念仏

心に「弥陀、助けたまえ」と思い、口に「南無阿弥陀仏」と称え、その力で往生すと思ひ込む。この念仏が世間に流布し、それが浄土真宗の念仏だと思われている。

御文第一帖一通の趣意

問答

ある人の問 門徒は、坊主の弟子なのか阿弥陀如来・親鸞聖人の弟子なのか？

蓮如上人の答 「親鸞は弟子一人もたず」、「そのゆえは、如来の教法を、十方衆生に

ときかかしむるときは、ただ如来の御代官をもうしつるばかりなり。さらに親鸞めずらしき法をもひろめず、如来の教法をわれも信じ、ひとにもおしえかかしむるばかりなり。そのほかは、なにをおしえて弟子といわんぞ」と仰っています。そして、親鸞聖人は、ご門徒を弟子としてではなく、御同行御同朋と大切にされました。

蓮如上人の誠め

この頃は、坊主が、浄土真宗の信心をいだけた喜びを知らない。

その上、聞法求道する門徒が余所で仏法聴聞すると諫める者までいる。

これでは、坊主の信心が定まらないばかりか、当然、門徒の信心も定まらない。

阿弥陀如来・親鸞聖人の門徒でありながら、浄土真宗に遇えず一生は空しく過ぎることになるし、信心が誤っているから、門徒は誰の弟子なのかなどと問うのです。

蓮如上人のご勧化

仏法を聴聞して「信心の一理」を心得なさい。信心が定まれば、今までにない喜びがありますよ。

信心が定まった喜びは、引用した古歌にあるとおり、それまでの自己満足した時の喜びとはまったく別物で、「喜びは、身にも嬉しさが余る」と表現してしまふほどの味わいです。

花まつり

4月7日（日）
13時30分～15時30分



腕輪数珠作り→甘茶かけ→
紙芝居→お点前と、仏様の
前などで、子どもからお年寄
りまで、みんなでいっしょに
尊い時間をいただきます。



右から
田中 嘉一
川名 喜昭
田中 昭一
足達 崇
鈴木正一郎
田村 晋一
朝倉 清
(敬称略)

桜の苗木植樹と補植
三月五日（火）、やがて寺参
りする子や孫を思いつつ、鐘
突き堂山北側斜面に14本と枯
れた9本の補植をしました。

勝善寺で親鸞教室

「和讃をいただく」

4月17日（水）

12時30分～ 受付

13時～16時30分

講師：海法龍先生

参加費 1,000円



ご予約ください！

3月21日10時、春彼岸会

4月7日13時30分、花まつり

4月17日13時、親鸞教室

5月9日13時半、中佐久間講

5月12日14時、同朋の会

5月20日13時、組合同研修会

6月2日9時、八日講十日講

6月2日14時、同朋の会兼第二

回勝善寺聞法会

6月5日13時、教区同朋大会

6月12日13時、親鸞教室

6月14日13時半、組同人研修会

6月18日13時、組同朋総会

6月23日8時30分、奉仕作業

7月28日14時、同朋の会

8月10日10時、孟蘭盆会

9月23日10時、秋彼岸会

11月15日、報恩講 速夜

16日、報恩講 晨朝 日中

※・・・以外は当寺が会場です。